

SDGsの授業で学んだことを生かして 葛巻・名木野小学校児童がお米を販売



各小学校のSDGs学習

葛巻小学校

今年の1学期から各自治体のSDGsの取り組みを学びつつ、廃村となった栃窪町で米作りを体験。地域おこし協力隊の奥田 誠さんと地元農家とともに、オリジナル米「う米」を育ててきました。



名木野小学校

見附市が行っているSDGsの取り組みを今年の1学期から学習。奥田さん(同上)から農業人口の減少などを学び、住み良いまちづくりについて考える中、身近な農家の人たちを笑顔にしようと小学校米を販売しました。



SDGsの授業の一環で、葛巻・名木野小学校の児童が自分たちで育てたお米や、自分たちの小学校区で作られている「小学校米」を、農産物直売所みつけセンターなどで販売しました。

各小学校の子どもたちは、それぞれのお米の味や食感などの特徴を来場者に説明した他、会場前で大きな声でお米をPR。見附のお米を多くの人に買ってもらおうと、元気いっぱいにお米を販売していました。

また、各小学校ともSDGsについて授業で学んだことを生かし、来場者にその成果を発表。葛巻小児童は手作りのポスターでフードロスや食料自給率の低下などへ理解を呼びかけた他、名木野小児童は新聞紙で自作したエコバックに小学校米を入れて手渡し、エコバックの利用を呼び掛けていました。

葛巻小学校の埴地茜音さんは「う米はもちもちつやつやで、甘くておいしいお米です。自信を持って薦められるお米をみんなに味わってもらえてとてもうれしいです」と話していました。

今年オンラインで点灯式を実施 街路樹イルミネーションが点灯



1 点灯のカウントダウンをする出演者 2 市役所前の撮影スポットで、家族や友人と記念撮影を楽しむ市民 3 点灯式の様子は、市公式YouTubeチャンネルで公開中。右QRコードからご覧ください。

11月22日、見附の冬の風物詩「街路樹イルミネーション」の点灯式がギャラリーみつけで行われました。

新型コロナウイルス感染症防止のため、今年市公式YouTubeアカウントからオンラインで配信。「びでおさーくる・みつけ」が撮影し、街路樹イルミネーション実行委員や見附高校の生徒、見附のご当地ヒーロー「放浪光使ミツケンバー」、久住市長が出演しました。当日はCGを用いた迫力満点のヒーローショーや、豪華品が当たる福引抽選会などの様子が放送され219人が視聴。出演者のカウントダウンで午後6時にイルミネーションが一齐に点灯し、市民を楽しませていました。

実行委員長の井上貴之さんは、「一時は中止も考えましたが、関係者の皆さんの協力もあり、今年も点灯式を開催できました。来年のことはまだ分かりませんが、このイルミネーションを今後も続けていくために、市民の皆さんからも応援をお願いします」と話していました。

地域を彩るイルミネーション

小学校やふるさとセンターでもイルミネーションが点灯中。お近くに立ち寄った際は、ぜひチェックしてみてください



温かみあふれるハンドメイド作品が大集合 手づくりばっか市



11月28～29日、ネーブルみつけで手づくりばっか市が開催され、市内外から約800人が訪れました。

今年は、感染症対策のため、お店同士の間隔をとり、整理券で入場時間や人数を制限して開催。43店の販売ブースには、ハンドメイド作家たちが作ったアクセサリーや木工品、雑貨などさまざまなジャンルの手づくり品が数多く並びました。訪れた人たちは、お店の人から作品についてのこだわりを聞きながら、お気に入りの商品を探していました。

飯浜美都子さん(長岡市)は、「手づくり品は温かみを感じられていいですね。手作りとは思えないほど、クオリティの高い品がたくさん並んでいて驚きました」と話していました。

横断歩道の歩行者優先をドライバーに呼びかけ みつけワークス前で地域住民らがチラシ配布

障害福祉サービス事業所みつけワークス(熱田町)前の路上で12月9日、同施設の職員や地域住民、見附警察署員などがドライバーに「横断歩道のルール」を呼びかけるチラシを配布しました。

今回の呼びかけは、同事業所の入所者や地域住民などが安全に渡れるように、横断歩道の周知を目的として実施。午前8時45分から30分間、参加者はドライバーに対し「横断歩道は歩行者優先です。一時停止をお願いします」と、交通ルールの徹底を呼びかけていました。

同事業所の小林克太郎園長は、「車通りと横断歩道利用者が多い時間帯に合わせ、呼びかけを行いました。今後も地域の人たちや見附警察と協力し、地域の交通安全を目指して呼びかけを継続したいです」と話していました。

